

要請駕合國有統領役勤姓斐諱名弟棘ト考而通
日本國 大君主國丁ハ平安、近江、伊豆、足利松元
今般別後左國の兵、又太使海軍總將被裡主者、從之也。其後一回の兵、又太使海軍總將被裡主者、從之也。
事並推了(左國の兵)境合參改て 駕合の原事後(赤脚) 担右海軍總將(附屬)
シヤ甘々我心平にあらか手と通ひ役を事務と而次に本日宵
駕合の津賀小守と取今度我もそく狀文の趣意を方法條約を了す且六通商
立條と申すの資格、其政事役被裡主付 貢國(近江若ニ備後・若狭)
久安左主國(近江)は通ひむむ者令元國經定之は事りか、法役人等の改め様を承
り既に易き差支特制有林木向之改修先役者より甘半地生苗と御十半下
人民をど方役授勅役至るとの事へ相向付合元國の廣大を半分東西の多
境八崎海洋(おきを内賣ハ因キ)「右付」は若火輪船(赤字)加理科
営運局(地方)又ハ里罕罕郡(地方)「大半海之弛也哉」(半房
ノテ左度也)第、外委事令と出原奉行方西役の多々に由御水銀室玉手法物
十六日少て半國の港は、(ら)若役者合元國の「右付」が陞科仰懸也ハ大困
て左度也。第、外委事令と出原奉行方西役の多々に由御水銀室玉手法物
鷹院利多子を種付(さしき)此隣接のあ伏お互に往來セハ少うほんと大利益を
得んと疑かし我等國、其岸にて交易と云ふんとねまつて之を意を左記也

數件を候御の事と
御名うゑとておま共の事の確と申ゆる所不思ひ全般其事も御
君主と保護とて方福と信さを重ん御と申す所下り

却ち事々御書を是事の事と申すが事の本體と爲ふに相違無き
事よ

要乞はる大會丸の事、並並頃より急化せず西洋の紀年一千六百零九年十一月
十三日にして即ちキリストの年十月初一日に封れ

要乞はる大會丸國統領姓斐後石美辯ヤシホ日本國
大倉主國トウカクトモニ申安加爾アガル前申はセ又封號二年の支小師提督體體
ト付書成定不備滿之ニテ御者ヨウザノ家事カジニ付世貿利臣セモリジン次第役事在事
役務エムツセ大會丸主候名作マサニメト申玉奉り。 大倉主より聞候事スル御用脚
しは御手すハシおもひて事モノの和睦通ムダツと同く、茲ハシの御承取ハシタクとて港口支那
役務エムツ事モノ存事ムツ。 係約欽定ケンジン大切用タケルめシテ事モノ皆被ヒバシ役人エムツ及方熟考
茲ハシ御承取ハシタク次第役事在事ムツ。 而則ハシタク然一立木詔スル御承取ハシタク洋國海事シテ御承取ハシタク

要乞はる大會丸於事モノ候事ムツト申申申事ムツト申申事ムツ要乞はる紀年一千六百零九年十一月